

教科	理科	学科	普通科	学年	2	年	必履修科目でない
科目	物理基礎			単位数	2	単位	
使用教科書	新編 物理基礎 (数研出版)			副教材	新編 物理基礎 準拠サポートノート(数研出版)		

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)									
育成を目指す 資質・能力	基盤的学力	◎	協働力		論理的思考力	◎	傾聴力	○	課題解決能力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	◎	情報活用能力		コミュニケーション能力	○
	基礎的読解力		創造力		洞察力		継続力		行動力	
	自己管理能力		共感力		自己実現力		復元力(折れない心)		自己肯定感	
学習の到達目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、様々な物理現象についての理解するとともに、科学的に探求するために必要な基本的な技能を身に付ける。									
	・観察、実験など通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。									
	・様々な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとする態度を養う。									

★評価規準	A: 十分満足できる	B: 概ね満足できる(基準)	C: 努力を要する
★単元ごとの評価規準 運動の表し方			
★4月～6月下旬までの学習内容			
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけている。	運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現することができる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート	★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート	★何で評価するか ・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート	

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点: 評価方法)
4	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1 速度 2 加速度	身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解する。 物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解する。 速度が変化する物体の直線運動に関する実験などを行い、速度と時間との関係を見いだして理解するとともに、物体が直線運動する場合の加速度を理解する。
5	3落体の運動 第2章 運動の法則 1 力とそのはたらき 2 力のつりあい	物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動との関係について理解する。 物体に様々な力が働くことを理解する。 物体に働く力のつり合いを理解する。
6	3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力 定期考査	物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見いだして理解するとともに、運動の三法則を理解する。

★単元ごとの評価規準 仕事、熱とエネルギー			★7月上旬～9月下旬までの学習内容					
①知識・技能			②思考・判断・表現			③主体的に学習に取り組む態度		
直線運動を中心に、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見いだして理解する。			仕事の原理を理解し、道具を用いたときに必要な仕事ができるようになる。熱における規則性や関係性を見いだして表現している。			運動している物体はどのようなエネルギーをもっているかについて興味を持ち、探究しようとしている。		
★何で評価するか			★何で評価するか			★何で評価するか		
・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート			・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート			・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート		
7	第3章 仕事と力学的エネルギー 1 仕事 2 運動エネルギー		運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解する。 力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。 運動する物体が別の物体にする仕事と関連付け、運動エネルギーを表すことができるようになる。					

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

★単元ごとの評価規準			波と電気			★10月上旬～3月下旬までの学習内容						自己評価			実際評価		
①知識・技能			②思考・判断・表現			③主体的に学習に取り組む態度						観点			観点		
日常生活や社会と関連付けながら、波や音、電気の基本的な概念や原理・法則などを理解している。			波や音、電気について探究し、エネルギーとその利用における規則性や関係性を見いだして表現している。			波や音、電気に主体的に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。						①	②	③	①	②	③
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート			★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート			★何で評価するか ・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート											
10	第3編 波 第1章 波の性質 1 波と媒質の運動 2 重ねあわせの原理		波の波長や振動数、速さなどを理解し、基本的な性質及び縦波や横波などの違いが分かる。 波の重ね合わせや独立性、固定端と自由端での反射の違いを理解する。														
11	第2章 音 1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴 定期考査		気柱の共鳴と音源の振動数、共振や共鳴、うなりなどの音波の性質を理解する。 弦の振動について、弦の端で反射する波の重ね合わせによって定在波が現れることを理解する。														
12	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1 電気の性質		オームの法則などの基本的な内容を理解する。 金属中の電流が自由電子の流れであることを理解する。 物質は電氣的性質によって導体、半導体、不導体に区分されることを理解する。														
1	2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー		導体の電気抵抗と導体の長さ、断面積によって電気抵抗が異なることを理解する。 電流が仕事をする事で電気エネルギーがジュール熱に変換される場合にもエネルギー保存則が成りたっていることを理解する。														
2	第2章 磁場と交流 1 電流と磁場 2 交流と電磁波 定期考査		磁気力が及ぶ空間には磁場が生じていることや、磁気力を受ける向きについて理解する。 磁力線の表し方や電流のつくる磁場、電流が磁場から受ける力、電磁誘導などを理解する。														
3	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電		様々なエネルギーの形態が存在することを理解する。 エネルギーの変換に際して、変換の前後でエネルギーの総量は変わらないことを理解する。 再生可能エネルギーと枯渇性エネルギーについて理解する。														

◎前期振り返り	◎後期振り返り	▶備考